京都市北区雲ヶ畑にある広葉樹の森で、秋の恒例行事「ドングリ拾いと苗木づくり」を開催。クヌギ、コナラ、アラカシなど様々な樹種のドングリをビニールポットに植え、成長した苗木は2年後の春に同地の森へ植林する。『薪く炭くKYOTO』では、「森づくり」も大切な活動のひとつ

″木″の利用価値をエネルギー資源として見直す活動

report

森林バイオマスの利用促進 ― 薪く炭くKYOTO ―

『薪く炭くKYOTO』の前代表で、森林バイオマスの利用促進を提案する松田直子さん（右）と、森での保全活動を企画・主催する「理想の森プロジェクト」のリーダー・渕上佑樹さん（左）。同団体は現在、代表者を立てずに数名の主要メンバーが世話人となり、他団体とも連携を取りながら活動している

森を守り、循環型社会を提案

京都市の中心部から北へ約15㎞。鴨川の源流を有する雲ヶ畑（くもがはた）の山林で、『薪（しん）く炭（たん）くKYOTO』のメンバーたちは毎月、山仕事に汗を流す。会社員や京都府の職員、大学生らが中心となり、2002年6月に立ち上げたボランティア団体である。そのユニークなネーミングには、「山に囲まれた京都を舞台に、薪や炭といった再生可能なエネルギー資源である″森林バイオマス″を広め、循環型社会を提案するシンクタンクになろう」という思いが込められている。

主な活動は、京都市内における薪や炭の普及のための調査や講師を招いての勉強会、森林バイオマス先進地の視察、市民参加型のイベント開催などに加え、木材の供給源となる森の育成にも力を注ぐ。

森林作業の拠点となる雲ヶ畑の山林は、地元の山主から借りている広葉樹の森で、ここでは春の植林から夏の下草刈り、秋のドングリ拾いと苗木づくり、冬には次の植林に向けた地ごしらえを行う。また、山主の指導を受けながら、同地に広く分布する人工林の間伐作業も手伝っている。自分たちで伐り出した

京都市内の町家を利用した「Hibana」のショップ。地産地消を心がけ、できるだけ京都産の薪や炭を仕入れている。店内にはペレットストーブ、火鉢、七輪、炭グッズ、木工品など森林バイオマスに関連した商品が並ぶ

ストーブやボイラーの燃料となる100%天然素材の木質ペレット。「Hibana」で販売しているのは、製材所から出た木クズを再利用したホワイトペレット

薪や炭を使っている京都市内の飲食店や風呂屋の調査を行い、マップで紹介する「森林バイオマス絵巻」。『薪く炭くKYOTO』では"楽しく活動すること"をモットーに、「バイオマスツアー」の開催や「薪炭検定」の作成なども手がけている

山主の指導のもと、人工林の間伐材を伐り出し、運搬するメンバーたち。間伐材は薪や炭、山小屋やベンチづくりに活用。夏には下草刈りを行うなど年間を通して定期的に山へ入り、手入れを施している。森林作業もこなす同団体には、フットワークの軽い若手メンバーが多い

山仕事の後は、薪と炭を使ってダッチオーブンで野外料理をつくり、「森林バイオマスの利用」を実践。山の中で仲間と火を囲み、手づくりの料理を堪能するひとときは、メンバーの楽しみのひとつ

「薪く炭くKYOTO」問い合わせ先

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る 梅湊町 83-1
「ひと・まち交流館 京都」2F
京都市市民活動総合センター内
メールボックス No.18
TEL:050-3408-4812　http://sinktank.org

間伐材で薪割りや炭焼きを体験し、それを燃料にして野外料理を楽しむなどといった活動を通して、メンバー自らが森林バイオマスの利用を実践。これらの森づくりの活動を「理想の森プロジェクト」と名付け、『薪く炭くKYOTO』以外にも雲ヶ畑で山仕事を行う団体と、京都市北区にある木の家具工房が協賛し、3団体での連携によりネットワークを広げている。

そして発足から4年後、活動実績も積まれていく中で、新しい展開を目指していた前代表の松田直子さんは、「森林バイオマスの利用促進」を目的とした会社『Hibana』を設立した。「木質燃料の供給と利用法をもっと具体的に考え、責任を持って情報やサービスを社会へ提供するために起業しました」。

『Hibana』では、行政や民間企業と連携した森林バイオマスの普及活動の企画・運営を事業の軸としながら、薪炭や木質ペレット、それを使うためのストーブや火鉢、七輪などの販売も行い、森林バイオマスの利用を目に見える形で提案している。さらに、製材所から出る廃材や街路樹の剪定枝を薪へと転用し、薪ストーブのユーザーへ供給する仕組みもつくり出した。ちなみに松田さんは、店舗と自宅でペレットストーブを愛用。「木質ペレットは軽量でストックしやすく燃焼時に煙も出にくいので、現代の暮らしに取り入れやすい」と話す。

『薪く炭くKYOTO』の会員は現在約80名。松田さんは起業後もメンバーの一員として、常に仲間と連携を取りながら森林バイオマスの普及につとめる。「日本の森を元気にしたい！」。そんな夢を持って取り組む京都発の活動の数々が、有志のネットワークによって育まれている。

（文責・CEL編集室）